へ 13
3181

へ13
3181
門へ13
3181
昭和九年
十月一日
購求

雑所聞　自序

蒼と詠ると呼吸を氣と知り

烏かあ〳〵と啼ハ揚場へ

果ぐこぼれたと騒ぐ家中

い一ち向こう安ちゃんといふと

さんぶらと先生通の来状。
酒蔵とは あつらえ変番号
ろく人ならぬ むさ人。船の形ぐら
領をふしく 嘉くく。ちやくも
者交の作者 お点。か 形とと

外題を対ちぐらみ移強なる
べきはとをられたる 成一冊
甲駅新話乃 ちあとまくら
並二一 將 下甲閨久い
ものと矣 ハ否

山毛欅処馬鹿人

小便橋のうら乃

灰小屋亭ス

將軍甲冑ヲ

大士さんの中一羅ヨリ鐸ヲ

変驚あり。あくるをふーき

あくらめと示ふーきあるかこと

山毛馬鹿人が甲鐸新話乃

一巻。ふーきれあらをそう

より書林文屋(よう)あれなもの好い

味をメてよろひて床北内まひめ
立〜〜る粋ぢ甲冑の文様世よ
並ぶ〜〜ぶんそ〜まて例の亭
をせがむ亭書林北為る亭をくく
るれをチミるこ十三反。三橋
亭と高をあらそひ新ろこ山を
も張ぬくこ〜〜多くの中て

ころさんの女ま反〜〜亭
ち〜〜事。義理一片乃あぶ
けきふらだ。そのあぶつき純
ちき〜〜ま亭やり。日ま何度
法らめ〜〜

粉田野平閣

魚田北火の景ハ実ニうして何をうやく
驛路の鈴北暮ハ為山の面から下町こ
者て名にしおふ益城なりで大木戸の書
ハんどのう界せとう知もしらぬも通ひ帳
てうぎゾくゝる其数ハ八十軒餘の茶屋大
み勢樽若うしゝる粉野茶やぐ

絵つけぬ顔をふり返り意気ちがい
風ふれそめ〳〵の楽〳〵ことすめや
風〳〵屋一寸先きやうくもりけさく
となるとは走りぽりと客船動きるめく食
を喰ひ〳〵ろ[illegible]ろちやァいや[illegible]
世間むく大きうれぬて往〳〵せ〳〵[illegible]川
おきもでもいやうちの弘不んと松坐さんが

のちうくをふとひゝたつゝ[illegible]
ぬ〳〵ふらよひや〳〵回松坐さん〳〵[illegible]
大きなこゑで松坐さん〳〵[illegible]坐ちんでございを
名のかどゞれくなりうすとわらひなぐら来ん[illegible]
お前お食を給るんせんろ回ろちち
ひとりやァいや回ろちもたゝいす[illegible]
ゑめ一いやぶきふトやァね〳〵か回連が

あんだ喰ひのき圖　わらちゃの付ゑ
よ子圖そらぐろうを思つてよ。川
もゑ六ゑくふもの圖ずちゃーお
ゆの悪い圖そんでも空ーどやァねく
圖はぐゑちんちよ　とのゑ　ゆつめる圖ヨいてく
く浜まつく圖そんふら泰
を取ゆよくのたゆ　ゑみを　ゑ供お文　あゐ引圖

お文やく図あい引圖ニ、ちふ生子ァ
さつきらら、呼なす図夫でもおァ屋の
用をーてれいーく圖ナゼお針さんハ
図やぐ宿うちん世ん圖そらぐさらら
よ。何うもめる沙汰ぐつけ圖　あやゆびを出ーて
星をばつき出ひのうの圖そらぐそ
うよ。どうてもさんちのかのぐ。かのぐ

このらの図ァイ何のもの用でおぜんすく
回ェ、せはーねく子ざァアレあすこはの
藥箱ガ有うらあれ」茶ァくんできや
図あいやくハんを おて下く図お外さんとハァ丈の高
へのう図ナニサ丈ハひくいハナ回ソレもちう
お前ガ部下で呼うみなんーさのさ
図ウ、あの盛夫本田う図喧嘩ァねく図

ァイお茶ァ持てめ」うねーさ図よく
ちさく。サァ川さん盛いさい回待
ちんし。茶碗を出ーいせう。モシお前も
おあんあんさう」図喰ねードやァさ
回ヨヤく又かく図ナニさつきやァちつと
外ァ喰ねくもの を回あを」でもちつと
うく。出のるく。サァそん形ら箱うとん

志よう図いつもゐ立方杯といぬーの
るゆくゝゝ図アイ五方杯とァわちぐ
事。ぞろり図」といお前のるゆゝ
ゝとお母帳ぐらんなんくると前を松
久ーい物をくゝちゃんーとみなのそく図
さつきの物を出さねくね」ろ図ほんにそう
だつけれをたから名物の小梅コレ図ヲちゃんぐ
づけ弘出す

図粕ゐ漬さ小梅さ松ろちちゃァ又
持越びゐーさあるのよいぐの梅ろと思
ひーたよ志ゝ図こるもやなるみなのは無
さんが湯治のゝやげさ捨てゐちんー
いつそよゝおぜんを図注年さん取て
おくん移んー図ナニちふ添くそゝぐ糖
ちちなのなせ」図卍慣ゝ山の図ドレ

わつちゃ見てよんせう。コレ是程あるもの
有もの〻ヲ図松茸さんにやるい惜しみ
からさ図よし〳〵〻見えをみちんよ
ゆるしハらく
くひるもあり若い者伊山二つ川のもしごろ瀬川さん〳〵
とゝ〻ども申えぬゆ一こ生一きの口まで瀬川さんサア〳〵
本ゝゝサアーたらくちごろまて
さつきゝゝ呼や江ハナ一すとは出ちん
し図どうも隣の騒きでもう〳〵ねゝ

ものをとゝ言てきりる図注文
だの図氣ぢもむやつさちんにとなり
を達先ゝ騒ぐのヲ図屋敷ものゝ
図ナニサ二人ちぐらめくり〳〵さ図ねぶ一
姐といふぬだの何をぞかのめこら騒
ぐめ馬鹿い図その癖きん〳〵き
清ゝんさん杉江図とんだるゝの

馴染う（枡）（十三才）引付き（淫）お前い（枡）とう
ちやほの亀男（淫）又喜太さんう（枡）（十八才）喜
太さんいもう来やせん（淫）咲たつのう
（枡）来るのさ（新造の後）（奥さまの方にて喜太郎）
おぐしいたよーちんー（枡）松さんよさー
いひきよアレエ松さんー（枡）咲つけ
きあてこらひきろく（淫）すそをとらく
ーてーのけ出さ

喜太様ーはあんだー（枡）あーやァ
外の喜太さんでごぜいす（淫）まーぐ
隠にろとこそぐる（枡）アー誤りいーたおろー
すそんなら正直よりひいせーー吸ロ
乃俗さ（淫）そんなふせーネんまよく
ぢるけあさるの（枡）とつさんがなくつて
かーさん斗ぢーのうらよーごぜいすよ

圓うら山いの圓ら山ふが何ぐ海山數
〳〵圓々来〳〵家ろさ圓なぜ〳〵圓金ま
ん〳〵の色男ぐらら圓ろ〳〵加減さら
ぬ好きをいびふんすね 圓海ろ来と圓
武さんさ圓そ〳〵てそろ〳〵ぬ〳〵ぬ
ん〳〵ろら圓さま耳茂出〳〵な圓ゥさ〳〵
おれりやァの圓どうもいつて法らね
へよ（注年が方なら）ほんよどうろろろろ
ろら圓どうもろ〳〵ふ〳〵にさ〳〵白〳〵で
れ法〳〵なんぬ〳〵おさらば〳〵圓ナゼいな
なさるら圓又揚るめ〳〵りやせら圓能
揚ろ来さ〳〵なる事〳〵と圓なぜ〳〵圓ろ
さの〳〵〳〵どもの圓ろ〳〵と注年のせなかなら
圓なんぐら海ろ〳〵歌色ゥ〳〵てみるの

囲（かほをしらめ）ざいをうてくそよ引囲ざれつらな
ざれらぶるく物もいらねるる囲い
るるどうせお前ゐいはね一けりやァ
滑ねくるるぶらぶあるね囲ぶるぶ
ら貴てくといふるるうきりいぶる
ちちぶ志をうてく囲いよ（サその家
ぶ囲そのるもあの家きいらねる

あちちィ出さぶる志く貴たぶるめらァ泉
を洗るるめくといったるのね男ど
囲そらひるんーちやァどうもたのち
ィもいらをやせん囲ナゼいく家で云出
ーくものぶらをねく理屋ァね囲ソレ
おんあるおらーらーくひちゃんちゃァ
いつまでも囲大ぶむつらいのサァ何も

いはねくらくらくらげるく回そふーておくん
あんすうくお前又腰ァ立ちやァたちすん
せんう回さに得心でやるものを回そして
お前ひとりおそておくんなんすう〳〵回知〳〵
るのさ回そんおらうちやァあちこち行
みすよ大きやく〳〵る供大吉あい引回る大
きやるくるだろう乃変北条砲や何のを

かくづけてのおくーてあちちのあバた盃く
よく清ねくやうた火をいけて持て来て
の時烟草盆いあちこち持て性てくりや
回吉あいとそこらつける回おめく茶ァ呑ちんせん回
いやくー只せくー茶よるさるる物ヲ回又そんな
るのをいひあんすうよーと身もだーてたれる回そんきう
いふめくーきかーて座敷ヲ来いやるるァ

なるねーぜ〜回そうやァふなるそんなら
はて来いすと回ウ〜いきや〜コレ大きて
おれと寝ねくら因いや〜回おひそうの
ねーいひよう〜どのヨコレ案ツけてくりやよ
ばて因あいろうけおまいて休ろなんー回寝てら
わくら因ちつくろうとたばこぼんさけておくざーき〜寅生鍋回もう
寝たら因アイ寝ちんすきー〜でおきんす回

よしく〜寝武太夫に戦武そーてあつちハすん
どうの回お菓ドな人ほなさつぱりもらひ
ちゃ〜ちゃ亭さんお世話でおきんーー〜寝武
寝武ナニわく〜ハ何をさ洗ちるいおぜん
せんお前大ゑち器ゑでごきんーーるる
こぜーちんーーくく〜回大きにさ洗い
でもぬーやァ遅こでつくり上ちなんす

からとうちゝ苦労かけます國私
も早う来ていりんどいやうまいでつる
迄あるゝトやてゝるんよりふい又傍年寄の
所ゝ祝儀するでよばれゝゆゑ婚迄ち
たよ國道理でお前いつもより大お迄
うゞざりまたマアくちんてもおめでゝに
お炯を見てよませう國よく飲ゝがる

ぬトやの時うどれぞ呼ふかい回ナニもふ
よーちえーくあるあ迄ふおぜんす國
おゝんもてゝういの國旦那あげます
國押よゝう國マアいりやーサアつぎます
う國ヲヤトよりくけふも迄らゝ飯ど
でい國は祝儀するすい何でこざりまた
國役替の祝儀さ國座一ウ大吉國ものイ替て

ごっ
ち亭さんちつとさつちい寄ておくん
おんなんー園ヲウトお吸物うるく
よこーやサアお吸なさりまー[illegible]
旦那さん吸ハ遅ふさ出なさる事ましたよ
國伊ハ久もうどうーやく吸こ涼
ーくなるのサアひとつ呑給ー[illegible]ハイ
有難うございます[illegible]ドレつぶふ[illegible]なる

是ハサ歳外でこぜんたヲトおいこぼれ
やりー園お肴ハ[illegible]アイいくとこ置て下さおき不ん
ま旦那いおくーぶりてこさ事ますね
國その笠トやえ帰りに亟許く雑ー
でる國女人にそんなお味しぶごさり
まーーーさつサ國サアア肴アあ[illegible]と導線を
國これハ有難うござりまたとたんで
ふところー[illegible]ど

うじやさんちい蛾ふらの囲ア　お屋さ
出ちに先（せん）どぢらい堀の内の千葉で大
ふまちやらでございます國々でい
けつく品川よりはうぎたふての囲ない
さ仕合でございまして不んよおを敷ら
き品川方ぐ近ふこさりませふ國大
きよ近いんでもきんとあどいなもので

おもーろれいた囲どうでもお馴染ほど
よいろいごさりはせん囲そーさ國本に
蚊帳イでも徒くらちちゃ家ゆく囲たい
何りがくうござんさりますす蚊帳い繁昌いさ
ーはたらま囲ウ、豆過ちらいくーん人ぐ出
おるて囲さうづまをこりやァとつさんお前ま
あぢう囲なぜもらう一ようろう囲いいま

そーてもうお膳をゝやをゝ圖イヤ〳〵
食も酒もほーうなりゝ圖それでも
ちつとおこの漬なさつて圖いゝ〳〵
圖ハイそんなら上よりまいとつさん茶
漬は圖いゝよ〳〵おこの漬ゝ是がとるの圖
そんなら氣根よ考へ〳〵ドレ御馳走
圖さそれゝやア又たぎる圖よゝろ圖

ちつなさ圖左樣ならもふお休まいさー内
せうと強て圖コレくそちゝ往さら海そよ
塩茶ア一盃おゝ〳〵てたもれ圖大い
おこゝ〳〵とふひなぶらをりる圖わさーもちゝお
いとはよいゝ〳〵まさゝ圖もゝ一ぷく吞
でいきなんーさあとすいて出た付圖袖引と
いふ和らチこるゝやア又格別大じあが吸

仕たむこよりふるふごぎんにハ回ヲヤ
しどうせうのかいゝ園ハイやるはみんな
吸ものとーやーさときせるをおりてあるすきんよゝ
吸るいいつもの通りでござりませゝ園
さらさらゝ園川さんおやすゝ回アイお
ちらバ一園供のやろうをたのむも園
たりゝ回おばさんよくいつておくん

ぶん一園ないい回おさらバ一園立て置きやゝ
あふまでハさらバ園いよ市川の園ハいと矢
回いつでも若一氣ぐね園ないでなふ
ちやアいくまいゝ園アイ塩茶でおきんす
と熟川回おきちやアねへぬーよりもうしや
が前
ちゝちゃ拾ぶけゝゝゝゝぐ園一の愛そうよ
ねむらゝゝぞい回体をかゝさ何のモウるく
と寄り

徒てわら〳〵図（ゑんじゃ）ゑそゆく図（ゆか）サア　お
糸を図（ゆか）の前（まえ）でくのゝ回（まわ）さようあぜん
にソレそちの方（かた）イよせてとらつて図（ゆか）
あゝと糸をしきあゝ扇をさしまくらぶ（とたづ）ねる回（まわ）よし〳〵
ねのすこのかまねるあげてあるよ図（ゆか）夫
なるふぐぜんにハイちきんよ〳〵図（ゆか）
ヲイ夜たよく〳〵回（まわ）も立て行（ゆく）図（ゆか）るもみうまくなる（ねる）
回（まわ）きなく夜（よる）なんしゝとうとと（とうやぶ）焼（やき）ゝ
あんまり暗（くら）いこと（ことひなぶら）入（いる）図（ゆか）いくやよし〳〵
コレもまくらハ違（ちがふ）ふくの回（まわ）よくゝ入（いる）な
人ーさのあちの方（かた）ぶきみおこゝで
糸をい呉（くれ）いきん図（ゆか）糸も枕もなんでもよい
君（きみ）なこゝ作（つくり）やそふ（とうやそふ）回（まわ）うそやお前
お西乃（にしの）ち新造（しんぞう）さんに久ーぶりでおあひ

なんーてさぞ嬉しーうおぎんせーよ國ナアこ
もう山の柿はいあき果ーくりや回宅攻
つななんー國咥ドやないよ回そんでも
お前ち郵送様のち用いちなんせらぶちつ
ちが用いちなんにめく國ちいでいなんと
ふーふーぐよい回そんあらいひすよ國おさ回
アりまお前わちちが用をちメておくんあんす

氣ちらどうぞアいつもお出ーかいー
さ何をアい麻酒をそーておくんあんー
國今までのいどうりやい回どうも余りよ
ごれいーさくらち國夫どうなとちよら
ぞい回ほんまうそうそうておくんあんすと
今までのを回ーをひす國そーてのぶ
よいの回ふんいぬ編酒物著いふうーうでも

よゝおぢんにゑりをハびろうどを
くんちん〳〵國そんなら直に松坂で焼
らそう四不ん引ろ〳〵わちやァいつて嬉〳〵
おぢんすよとぢく國そらハりまゝ寅ハ四
どうど〳〵國々青ハちよひぢや四ァいひ
ゑ〳〵わくやつさ國芋をときやいの四ゆん
〳〵ちぶやしばらくやむ國ァ大ゑ〳〵せつな

かつさろ〳〵四ちぶらよゝちんし〳〵さ
なりィ女〳〵にハナ不人ふあ前ハさけを
ちんにさを坊ろ〳〵ゆ〳〵ゆ國々ろろら
ちをめ〳〵四たばつけお前の〳〵ちんちんう國
ゆばこは左でもよゝのろ〳〵ろ〳〵ゆ四たば
こハちちぶ兎〳〵いさいすかり〳〵國のぷ〳〵
ちゝを安よゝか四ァイちちやァまごろ

ぢやァどうしてそこでどうもねむ
くつて成りきんよそれでも第の点を
ねこ家人りやァあるられいせんがお前の
ようりハやさひ分を成ぢと気ハ
あれねこをくら猫ねむおぢんすよ國
それでもあちらいけりやあろ四ナァこ
いろずとよくあぜ人に國それがわ悪いわや

四そんなら一寝メねていきみなさうアち
つとねかーておくんちんーよ國寝れ
らふをわ四ナニサおこ前ねちんーらつ
ちやァ寝みますよと云ようはやく國いましくして
ふ四じくとろくそう鼻[illegible]寝たさん〜こちつところ
ちよろ〜むおなんーー寝正やかあーいぐま
つて寝ろーて呉ろよ四よ何月ら何ら

ぢっちゃむこうより園こうしてみても
少しうら回りあるばいつぐ忘こ回い
くつ大しやァたれさをいきん里さ〳〵
ゑそさん〳〵園ヒ小むぐらい何ぐ
よむくり回お前よあ何を腰ァ立なすった
園何ぢ腰ァたちやァたわ〳〵回そんならぜ
うちぐ来るとそこちらちゃむぬそ鍬ぢな

んーた園そりやァわりぐむねに見ぐ
有ら回いこ何もわっちがおめ」に腰ァ
たこせるやうな事ァたいせん園そんなら
ビ宵ら已ひとりねせて置てどけ〜か
いってわあ〳〵とさわぐでいた回あの時ァ
融川さんのざーきでお食をたべて居い
ーた園食きこっちでく」ば忘」事よ回

夫でも一昨日からねてばかりみてあ
るたちが呼るといかねーりやあ思ふ
おぜんさあ中園ろくんなら食をくつた
ら直ぐきたがるへはサ囲わつちも直
にくろ氣だつけが甚うちに武さんが
来て融川さんが変布にれ見物だら
ら勧めてみたものを園夫なら又閑

に咲てもみれい忘へわあ〜と騒ぐ事ア
ねー囲夫もあくちう多彩がお前の事
をいつてなぶるからの主さ夫をいをふ
ならお前も去を酒猫をきやう〜とい
はせなんーたドやアねーかく園ありやア
又とあてい囲ありやア又ちんだ」サアいひな
人しくとゆす園ハシ〜浜ち〜囲そんな

なんー年前の本ァ棚へ上て置て
ちらにほんよりちゃ前ハ餘程腐たち
つほいよそのの様ちゃァとまつた物だ
まわつちゃ性てと笹葉ばつかりてたる
だろう園さと共ときやァ中よくするのさ今
しやァのといつても疑が有こう囲気ゴ恵ふおせん
あとなぜ一まで一ーたもの疑なす

ゴァおぜんせん園夫でもうさぶるめ物りや
ァねへ毎晩かなる松どものそてよく
お模めるとりまま鍋とて尻の早一と
たとてあるハサ囲そるるのァんや外の
女ァーらねへがちんぼさぐこでもそんな
ドやァごぜんせん園不んるお模で思ひ
出ーたそ年ァまぐとつさんが来ね

の囲ア〳〵いつも鮭のとれる時ばかりでなくつ
ちゃア来やせん 囲来るとうろの子を安て
置て（おまも）コレモ身をとアしや 囲（さくらをながきこをこてよりか）
待ちんー何ぞうろいざぐなるよ 囲何
ぞの囲ありやアたーろ滝川さんの名
宛よ川さん〳〵 滝川さん〳〵 囲エウ、
〳〵囲滝川さん〳〵といふうちに囲（伺）（きたり）らうから滝川見
一寸出ちきんー囲（おむさくな）（ちんどな）囲アア
ちんー囲（下ろうて）
ちんー囲（出ろ）（おきてどうぞ）
たろ囲（おいこと）（帰ろ）〳〵とゆひやち囲いけねーの
囲ちんでも一寸いきちんー囲エ、いめーま
いのぐとゆ張ろ 素生塾 囲生（なんなーて）（お蔵を）若前〳〵
囲ちんでおぎんにてなとめかせまから囲よりやるれ
お蔵がたまらるとハイ囲お前又ちんのるて

おぜんに酒を前がけ
つて一のどうちゃくのとつて筋味噌をあめ
と姉さんあをこるやうなちらーやのぶる
ちゃうふ酒をこうくさと思てくもいなずる何
つちイやつくせ一まに今くさ沢きもさ名なぶ
らね一四ちちも来る気ぶつけぶつる筋
く場を酒それんろ夫ァうぬぶ気原ら起

こるくくお大名のさ前様でも都様ける四月
では生りまけとやり山ぶ地さつーやるね
後でも到深ろ高ることそこうやァ大の生ぶ
あるとつて子を取て教一るハイそこぶ人情
公思くしふまんぶちんぼおらぶやーれ
ちぶねく笑をどとつて竹場の端牛を見る
やうす洗されたやうとみる場トやァ

ねゝ回さまお前をつぶしてものゝおさんに夫ぶ
ゝら床をお貴ひやりなん　間くそ弘
くらゝ姉皿ゞ高等絵どとうて寒ゞか
くつて調半ゞくまれる物ゝ回夫でも
お前ひとりで寝ようとおとなしく
ひたゝ―たりやアあせんさんゝ間ゞ
一人で寝て―るやアねゝれども兄の

あまりさるやアちつとでもよくあも
されてゝ思ひつるれてゝであ月を寝ゝ
のゞあ皿とりつさら又結服のくすりま
食ふ鱧うるやさと思ふゞそうりやアね
へよ回るれもゝのるやゞそんゞいせんゝ何を
やもわゝちゞ寝ゝ小ゝゞ思ゝおさん
にゝら堪忍―ておくんなん―間寝ゝれ

ちゃア悪いとこの筆ぐ有れバたらで筆忘も
ちゃねえりんどもいうさよ師ぐ綱の伯母さん
やうり口さちでたちまちるもアを知つて
所心の砂ヨ情ぐねえのだんんまで
いやアーねえぐ立打をきれバんんぐとつ
ても悪いれとこの理りやアねえ一つも回夫でも
あつちう家人い圏ろうたもえんてみるよ

ちんぼ勤お習ぐとつて禁えヨ斗加
ぢり付くりんめでも有めくたらでつき
ろくも赤ろくも知さ自会りやアねえ一とらけ
ぶたいこ回ヤイ大ら五お廻る知てみりゐ仕赤ろく
たア骨の和ち者でおざんに圏夫でも
つき合い知るめえ回ろうを知てちりよ
圏ろんちらなぜ筆ろつ一つも出さねえ回

ねいくら嫌ゝがどうーゐーゝ「陰ぐつと
ちんぐ（とゝさまきせる）をもつて上る」「囲」「囲」アレ伊八どんや（といたぐら）立てらうか
ぜる囲（御下ゝ五ぎゝ）（うゝしぶちきる入ゝ）是いどうーゝゝるて
ござりまた「陰」どうーゝゝゝやアねゝ（お母）
さまも云ゝ通りだア八百ゝらひとり
宿とゝて淋しいくら帰らうと云のぶ
夫る由の五のとゝぬるたゝ依て理害成

とゝて少きれば一ぱいやなぐるゝらるゝ
よ囲それぐとつてもお前口でおうさん
たハ兎も角もひようつとあのゝまゝ此でも
付ゝらどうあとんて陰ちんぐさけ大盃
らーいたらでおりぐかぶうをなけよゝと
思ハばは色て一ぱい（ちつた）麼茶も置やアーねゝ
囲それを又あんまりは経家でいけ居ら

ますアーす沢きこうけのりやさ所がお
ゆうちさらーとあつきんさのをあるこぐ
何のくのと云ふすつさる依てお腹アおこ
ふすつさのでござりますね固めるさう
だら夫るつゐちやァ固くあるの悔なぐら
跡のるすいやさバ枝条とやものでお
るは帰りなさらーとおつきんーと時

あつるがぢ歩るは帰ーやちんをバ何うはさら
のるるもないとやものでこざりますすら
変いひとつ私がお願ひでこざりますすぐ
々ぬちいちきぢんよくは帰りあさりまて又
吸吸でもは出ふすて下さりまーるの時
どのやうるとは腹ついるやうる級ーませう
せうーお業るいつらあるのぐこざりまても

お別れかいなおとなしく何もおしやらで
よけ帰りちさるものを何のくのといなさるハ
あのるか悪いのでごさりますてお前さんのお
言葉のうえよりよくく晩いお帰り成成
まして夜中の晩かならて出ふさりまし
悔なぐら理私のお方ふがよりは金さて
是ハ私がお願ひでごさりますへくとのぞせ
ハくでなやなて

図あメのうち ちらもお戸ねハとめられる家でいた出した所ハ
伊八がおてのいまごろよりくあとなもの成ぜひなく
めどて何まいなぐる帰るあての晩近
願ぜく図アイサ晩くどうともお白の
ちやうの後しませら是ハもら有ぐさう
ごさりますす図サア帰る図ハくた様なら必
晩ぜ出なさう市ぜきんよう図お

きもの（とらくろう）出てなくなる（まらく）四一階よりおりる 困 きつみ
（とんだ）なぐらみたてをちゃ て下りて大みお静
て出一又二さい（あるる）四 大ごのヨ、能一て下
きつたあすの晩未さらどうしよう〜の
困そうやのこの時すうるさアておれ一
せ一すんが急一ハナさたの〜いて家なん一
四武さんをこつちへ連て来よう〜困さこ
もうすぐよあつちよ家なん一押付なん

やて四そんならそうしやうのおらくいけ
よへと奥ざーき（裏生敷）（裏生敷借敷）差くん何時ごの
困モウあつちけ六ハつでございまして御ゴ
ふらお隣でそうでありますよ
こうこう（問題）何のこぶら先生と云をごさの問
アイサどうも人の悪いなん困り果ました
問のーのきめ不いた感心ごぞ、（ワレ在訳困弥）（ヒドヤ）ん

と仲居に入れて催促をあらせて一の
間にいそぎ前菜をみせると思ひきや因縁
さお前あの盤などうして薬らきる
物でごせんに間夫でもおらずかくさんぬ
ざアおやだ間こつちのめりやすもよく薬
てさ間ぢ記ーヤ女きくー間さこそ
ちくと借きく一杯差てゆろうりやア

ごきんせんら間ウ是若い衆一銚子働て
くれねーら間アいまぐお鍋が煮ーまくく
ごさりますす間さ沙てうりく間ケ左
やうなら今ーるとよ様せ様とてこうを持て下へ間ニ記左
せくく間見とあいウくい まだ早ふなぜんす
間さ早うまわく間かからてうねかあく間ちゃんちゃら
アレ烏ぢなく間ヲヤそれ来て鳴いすよ

[illegible]よりゝ鳥のさいいろでおぎんす[illegible]
るゝ〳〵ちやア又本の鳥ごと思ひしよ
[illegible]お前月が覚さう[illegible]のからすぐさ
[illegible]さあさ匹ウ上ませう[illegible]ヲット皆様
[illegible]のもは奇アごさりませんゝ味噌を焼
てめ[illegible]やゝ[illegible]おそろ[illegible]左様なら
置てめ[illegible]りまた[illegible]ヨイよし〳〵さあ[illegible]姉

都やゝ[illegible]大のねらん〳〵[illegible]おや〳〵[illegible]そんだ
[illegible]る[illegible]物よねいきつい物さどこゝ仙台
[illegible]場い[illegible]あるやアふくさサ[illegible]せんごい上り
とい〳〵[illegible]仙台のゝ[illegible]りのるゝさそんだ[illegible]
よ[illegible]おきて出る[illegible]さあせんごいとゝらせんと
やうかゝりちん〳〵[illegible]さあ〳〵[illegible]マア一こ参で
さ[illegible]ちんゝ茶碗いどこご[illegible]ろす碗でゝ

さあ[illegible]らちぶつぎゝせう[illegible]ヲアよ悼り〳〵
[illegible]一孟おぎ人ずよ[illegible]ソレこぼれみすハ[illegible]ち
めゝ衆ハ座頃の[illegible]ウーたるぶね一さらぶ
[illegible]ホい[illegible]サア和尚さそふ[illegible]アイどこゞ〳〵[illegible]
妄でおどんに[illegible]サアつゆでくんな[illegible]つる
で上んすらよ上るりヨをかたりちんーよ
[illegible]かゝるとり〳〵[illegible]味噌を上んせう[illegible]ちと

くんな[illegible]さあ[illegible]ぶぶを[illegible]只灰吹〳〵[illegible]ちんぞ
有るゝくどゝーやうの[illegible]灰吹[illegible]たいふきく[illegible]エお茶
むごひぞ清炭をくハせなすつた[illegible]ヲ〳〵地
忍ーておくんちんーほゝくさあるぐ灰を上ん
せゝ[illegible]ウこいろハみそぐ[illegible]サアさゝり〳〵呑で
かゝりちんー[illegible]てせハーね一でとそ[illegible]下にあき
さゝせんをひぎまうさ
せきばらひゑゝ〳〵[illegible]ちようとちことりヤ上ます是ゝり
せんどい上ゝりありさやうとうざ〳〵

扨もそう徐柳馬の次郎將門殿の遺せし
の荒博のゥ云屋〳〵なるゝ下総の国いと井の内
でうだちない家サアぶつ立それゴハア有〳〵金ゥ
勢ゝ〳〵柱サアも丸窠のアゝ様ゴ金釘
の衣サカナ、そこら中ぐふりくと只ゴ物
も屋もドぼーいよふだつちらゝあんでまれ
さあゝ主さ居だアとつて自然(ーびん)ゴ平親王と改

名のおーやつて、ゆぐゝるゝ時ゥこゝゥ屋く
ゴ時ゥ思ゥ殿をバ悔金を中殿とてんちも
和名をつけ一家一門印等まで橋番弥五
左衛門のゥ落ちやつてる宮名やらをくゝ仔
ひと一ゴハア王位をぶつたくる屋一下心どあて
いふゝゥを公連といふ利発な家元殿がん
づき、あぜハア苦ゝら洟殺のゥたくらんだ者が

勝をえるアねあき、ぢぎうーたもも
おざんわ、やれよしめされ、とせちに異人の
おーやったが、なるほどいらぐあ性のこといらぐあ
依てあぜうゆ入金「恵之」耳さアに逆ふて
やらで行うやアてる家老敬を押込たあと
公表うう千里をお「だーうとたと」のふーュ
みぢんも違ひいおざんわ「細敬だアの生てき

ぢアのとがう部「ゆ」ゆとおたーめせヤレ
大あ討ゆをさし「向金」とつて大將のヲ
撰れ〜、先「書る」立場を逆基敬ともさ
城中逆もと敬の中あ来をくるーくたつわアる
ちよぼ「のヲおぶちゆう時、とかくよてら用金」
好ぐあて依て六でではでつかく横のヲおー
やるゆ「六條主とハヤとうやてれでも不思

儀を賜ぶ、つよくいつもだまりで仕廻ふから
者はえどあとふ心で姓と教とやすり
七人を大ぜめとしてとりの盛まつてあんどいふ
大将達が対面するとなるく下つくりれを何を
いふと将門殿が七人一座で外廻りをれを
ふふと外だといふもんだから「ず盗」よふと
なつとおぼしめせ今そのときら盗といふ

人ハゲ」ところあァとろであんでもまつ
きんたちら来かくのを外盗」とおもつてねら
つたあれども、こらの前輪が邪魔る成きたよア
対づき」とつて来ろこサ盗」やりと外たと
おぼしめせ、アこ大あたやるぬ盗」馬ゝらさらひ
落る前を先にぐ前て押」と、やレよくく
たァとつてきん上下をりなの盗てあるかんなあ者のあるなりけり

囲ゑんや〜囲陣〜囲そんど面白〜る囲も
つと何ぞいひたん〜囲又々〜〜さあ
備さん〜一ツ囲まあ童わら囲さうよう
らえお前ぐらどう〜囲こちたァ釣ハあを
絵みさん囲サァつぎいーとよ囲どれ〜とさぐ〜
ぐつとア、えく備さん囲きよーろそんなら
おらもまう一盃呑うか囲サァつぎみせう囲

そんなら半ふ囲ふぜ〜囲今釣ア帰つて大分
用がある〜囲坊りふい幡下の拾丈の口が日
切ぐぜ〜囲アゝ又延金ごろうあすこもおう
一ぱ物ぐゝ囲いまやま〜頼もしるやア
お乾ア怖ぐるよいけねくいふゆ面のやつさ
囲あるやァたや囲もうのこちんさんろ〜囲
モウ〜〜囲サァいきやせう囲さあ〜囲

ゆるぶ行るが来るせくよ圖来ぢまる一の
さ圖あいの織圖ヲイより〳〵圖お前の折ぶ
寝返ーだ大ふときせる圖なれとーたるぶ音
のやゝだ圖る前も又目を覚てこれ公一
圖ホ〳〵圖そこらヨ又る織があらゝ入てくん会
圖星うゝヨヤ馬のやゝこ釘ら付てみゝよ圖落
てを知りるやゝこさ圖おつゝね圖行ものすれ

志なんきんう圖いゝる一より〳〵圖そんなら
おさらだよとうスもを出る圖結なんー階ぶ知れ
いすめ一とうスもを出る圖どなゝも悔りやいゝる圖
どうぞおちル一内に圖ア〳〵おさらバ〳〵圖
又そゝる面白一るを云ふんーよ圖やゝ
色ゝの之やれが有りれども格篇〳〵圖星ハお
厚ふさりまのてうまの嘘ござりまて圖

よし〳〵一年中閑ヲ見つけさらら閑
ハ、だいを様ふらけき心よう閑おせを
〳〵閑アイおつむりが老らごさります
閑ヲアト出ら〳〵閑尺をくらがらアヽ水ぶ溜つて
をりますモウちつて杖の方イ閑ヲイ〳〵
おさらべ〳〵くぐり戸ぐらい〳〵閑めくるちやア飛
ぶ兼ぞりぶ忘〳〵子閑Ⅲのくね〳〵のをつ

出〳〵て尺〳〵ぶね〳〵ガ閑そーてあんより
ひつこくもね〳〵子閑ヲちちんざ石のぐい
疾よー〳〵よ閑ヲちちもさ閑又疾ん
せんヲ閑お前の方イ〳〵一ホるわんせう
と床一又るよう
いびきのかけ合〇たゆ水濃ヲちんのくめヲ馬
追ヒも言を留め表に八雷の言陽の方
ヨい九尺〳〵水さて言のく殆ん〳〵